

## トルコとクルド問題



フリージャーナリスト 勝又 郁子

トルコのエルドアン大統領は、クルド人や政権に批判的な勢力を強引に抑え込もうとする。その強権的な姿勢への懸念が、内外に広がっている。2003年に首相に就任し、2014年に大統領に転じたエルドアン氏は、近代トルコ建国から100年の節目となる2023年まで、政治指導者として君臨し続けようとしているように見える。ケマル・アタチュルク以来、トルコは基本的に、世俗主義を基盤に西欧型の近代化を進める「トルコ人の国民国家」だった。この国の形を、エルドアン政権は転換しようとしてきた。まず、民主化の旗印を掲げて、アタチュルク主義の守護者を自任してきた軍の政治介入を排除した。次に、軍が取り仕切ってきたクルド問題の政治解決をめざし、反政府非合法組織であるクルディスタン労働者党（PKK）のゲリラをトルコ社会に復帰させるというプロジェクトに着手した。

ところが、PKK との和平プロセスは崩壊した。クルド人が多いトルコ東部では PKK シンパの若者が治安組織と衝突し、外出禁止令が頻繁に発令される。過激派「イスラム国」(IS) のテロだけでなく、イスタンブールやアンカラなどの大都市では、PKK の分派「クルディスタン自由の鷹 (TAK)」がテロ<sup>(1)</sup>を繰り返す。PKK と軍・治安部隊の衝突や、クルド人組織のテロによる死者は、昨年7月に PKK が停戦を放棄してから今年4月中旬までに1,200人を超えたとみられる<sup>(2)</sup>。エルドアン政権の与党、公正発展党 (AKP) は、PKK との関係を問われているクルド系の議員の訴追免除特権を剥奪する法案を議会に提出した。

### 〈軍主導から政府主導のクルド対策へ〉

エルドアン大統領は、なぜクルド問題の政治解決をめざす努力を放棄し、クルド勢力つ

- (1) 2015年12月23日に発生したイスタンブールのサビハ・ギョクチェン国際空港での爆弾テロ (1名死亡)、2016年2月17日にアンカラ市内を移動中の軍用車両を標的とした自動車爆弾 (28名死亡)、同年3月13日にアンカラの繁華街で起きた自動車爆弾 (37名死亡)、同年4月28日ブルサでの自爆 (自爆犯1名死亡) など。
- (2) BBC World News, 25 Apr.2016. 正確な死者数は把握できないが、エルドアン大統領は2016年3月28日、PKK の停戦破棄後、5,000人以上の PKK メンバーを殺害したと述べた。International Crisis Group Europe Briefing No.80, Mar.17.2016. は、市民250人以上を含む1,400人以上が死亡と報告している。

ぶしに転じたのか。昨年6月のトルコの総選挙では、クルド系の人民民主党（HDP）がAKP支持だったクルド人の票も奪う格好で躍進した。さらに、この1年あまりの間に、

ISと対峙するイラクやシリアのクルド人勢力が連携する動きが強まった。シリアで最大のクルド人政治勢力である民主連合党（PYD）は、内戦の混乱が続くシリアの北部で、なし崩し的に自治を始めている。PYDはもともとPKKの姉妹組織であり、PKKからの支援も受ける。国境を超えて連携が広がり、1990年代から自治を始めたイラクのクルディスタン地域政府（KRG）に続いて、シリアでもクルド人が自治を既成事実化しようと動く。そういう政治情勢の変化に、トルコ政府は過敏に反応している。

左翼運動の嵐が吹き荒れていた1978年、マルクス・レーニン主義を標榜するPKKがトルコ東部のクルド人の中心都市ディヤルバクルで結成された。2年後に起きた軍事クーデターの混乱と弾圧を逃れて、PKKはレバノンのベカー高原に拠点を築き、トルコにおける武装民族闘争を牽引していく。とはいえ、当時はクルド人の存在すら否定されており、PKKと軍・治安部隊との戦いも東南部の山中だった。多くの人々にとって民族の尊厳が問われているという認識はなかったろう。

だから90年代になって、オザル・トルコ大統領が自分にもクルドの血が流れていると発言したことは、トルコにクルド人という民族とクルド問題が存在する現実に、トルコの政治が向き合う第一歩といえた。さらに1996年に連立政権を主導した親イスラムの繁栄党は、多民族が共存する「21世紀版のオスマン帝国」の実現をスローガンとして掲げた。PKKと軍部との戦いは「戦争」と呼ばれるほど激化していたが、エルバカン首相の若い側近たちは、軍事作戦に頼るクルド対策は過ちであり、PKKとも交渉すべきだと主張した<sup>(3)</sup>。しかし、繁栄党政権は軍と司法の圧力を受けて1年で崩壊し、同党は世俗主義に反するとの理由で解党させられた。

その後、繁栄党のホープだったエルドアン氏やアブドゥラー・ギュル氏らが美徳党を経て設立したAKPは、2002年の総選挙で勝利した。AKPの単独政権は欧州連合（EU）加盟に必要な文民統制の機構改革を進めた。まず2003年、軍が実権を握り、内閣の決定を覆す権限を持っていた国家安全保障会議（MGK）の法的な位置づけを改め、MGKを諮問機関に格下げした。政府と軍部の力関係が一気に逆転したわけではない。だが、英フィナンシャル・タイムズ紙はこの制度改正を「静かな革命」と呼んだ。翌年には、軍人のポストであったMGKの事務局長に初めて文官が就任した。

---

#### 筆者紹介

フリージャーナリスト。1957年生まれ。国際基督教大学卒。著書に『クルド・国なき民族のいま』（新評論）、『イラク わが祖国に帰る日』（NHK出版）

---

---

(3) 筆者による首相府への取材。1996年8月。

## 〈クルディッシュ・オープニング〉

「TRT 6の成功を祈る」。2009年元旦、国営放送が24時間のクルド語専門チャンネルTRT 6の放送を開始<sup>(4)</sup>した。その祝辞をクルド語で締めくくったエルドアン首相は、公共の場でクルド語を使用した初めての首相となった。国家の分裂を煽るという批判も出たが、政治評論家のムスタファ・アクヨル氏は、トルコが「(民族の) アイデンティティとともにクルド人を抱擁し始めた」と述べている<sup>(5)</sup>。

この年、政府は、議会を通じてクルド問題についての議論を広げ、解決に導こうとする「クルディッシュ・オープニング」を提唱した。アルメニア人やアレヴィ教徒など民族や宗教の少数派の権利向上や憲法改正まで含む包括的な民主化イニシアティブの柱となる位置づけだ。同年10月には、新たな本拠地となっていたイラク北部のクルディスタン地域から、PKKのメンバー、難民キャンプのPKK支持者ら34人が、「平和グループ」としてトルコのハブール国境に到着した。国境では検察官、弁護士、裁判官らの立会いのもとで警察が身柄を引き受け、29人はその場で、5人も翌日釈放された。ところが、鳴り物入りで迎えられた「平和グループ」は賛否両論を巻き起こす。彼らが獄中のPKKのオジャラン党首<sup>(6)</sup>を賛美したことも問題となった。結局メンバーの多くが起訴されると、彼らは再びイラクに戻ってしまった。

## 〈秘密交渉から公の交渉へ〉

この時期も軍・治安部隊とPKKの衝突は続いていたが、政府は秘密裏にPKKとの和平交渉を行っていた。2011年9月、ハッカーによって通信社のサイトに交渉の録音が流された。リークされた秘密交渉の場は欧州とされ、ハカン・フィダン首相府副長官<sup>(7)</sup>、国家情報機関(MIT)のアフェト・ギュネシュ副長官、PKK関連組織のネットワークであるクルディスタン共同体連合(KCK)の幹部、ズベイル・アイダル氏らが参加していたという。トルコ政府は、「リスクを取らなければ問題は解決できない」(ベシル・アタライ副首相)と、秘密交渉の存在を認めた。

アイダル氏が後に語ったところによると、交渉は2008年から2011年5月まで続いた<sup>(8)</sup>。交渉の場のひとつがオスロだったことから「オスロ・プロセス」と呼ばれた。だが、リークされた時点でダウトオール外相(当時、現首相)は、「残念ながら、テロ行為が行われて

---

(4) TRTは2004年に1日30分のクルド語放送を開始している。

(5) “Turkey’s New Kurdish TV Hopes To Win Hearts And Minds”, Radio Free Europe Radio Liberty, 2 Jan.2009

(6) 1999年2月、潜伏中のナイロビで逮捕された。死刑判決を受けた。後に終身刑に減刑。

(7) 録音は2010年春頃のものともみられ、5回目の会談だったと報じられた。フィダン氏は同年4月にMIT長官に就任した。

(8) Chris Kutschera ‘The Secret Oslo Talks’, The Middle East Magazine, Issue 438 Dec.2012

いる時に交渉の余地はない」と述べていた。2011年7月に起きたPKKとの交戦でトルコ兵13名が死亡し、交渉はいったん決裂した。同年6月から翌年8月までのPKKの襲撃や交戦による死者数は700人を超え、2009年の4倍にのぼった<sup>(9)</sup>。

交渉再開のきっかけは、クルド人受刑者が2012年秋、刑務所の待遇改善や裁判でのクルド語の使用などを求めたハンストだった。ハンストが刑務所外にも広がった後、情報機関MITと協議したオジャラン党首が中止を呼びかけ、68日間に及んだハンストが死者を出すことなく終結した。これを機に政府は「新たな努力の一環」（ヤルチン・アクドール首相顧問）として和平交渉を始めた。当時、エルドアン首相は「トンネルの先に明かりが見える限り、一歩ずつ階段をのぼっていく」と語っていた。

この交渉はオスロ・プロセスの反省から生まれている。トルコ政府は交渉の存在を公にし、組織的な啓蒙活動を行い、平和民主党（BDP）などクルド系の政党や団体を巻き込んで、交渉支持の世論を広げようとした。交渉の要となる獄中のオジャランPKK党首と、クルド系国会議員の面会も許可された。翌13年、クルド暦の新年「ネウロズ」にあたる3月21日、停戦とゲリラのトルコ領からの撤退を呼びかけるオジャラン党首の書簡が読み上げられた。PKKがこれに応じ、移動を開始したゲリラの第一陣が2週間かけて、報道陣が待ち構えるイラクのカンディール山に到着した。

だが、ゲリラの撤退が滞っているとする政府と司法改革や新憲法草案づくりなどの民主化を進めるよう求めるクルド側との対立で、PKKは9月、秋に完了するはずだったゲリラの撤退計画を中止した。

## 〈和平プロセスより治安回復へ〉

停滞と仕切り直しが繰り返され、2015年2月にはオジャラン党首がPKKに武装放棄を決議する特別党大会の開催を求めた。和平への期待が再び高まったが、今度は同年6月の総選挙<sup>(10)</sup>でクルド系政党HDP<sup>(11)</sup>と政権与党AKPとの亀裂が深まった。AKPにとって、和平プロセス推進にはクルド勢力を自陣に取り込む狙いもあった。ところが、予想以上にHDPが議席を獲得して、AKPは過半数を割り込み、HDPが強力な大統領制に移行するための憲法改正に反対したことで、エルドアン政権の見込みが外れた。アクドール副首相は後に、HDPのセラハッティン・デミルタシュ共同党首が選挙戦中、「エルドアン、あなたが（権限を強化された）大統領になるのを許さない」と言った単純な一言が和平プロ

---

(9) ‘Turkey : The PKK and a Kurdish Settlement’, Europe Report 219, International Crisis Group 11 Sep.2012

(10) 550議席中 AKP258議席、共和人民党132議席、HDPと民族主義者行動党が80議席ずつ。

(11) 2013年設立。BDPが再編され、BDPの国会議員が多様な左派、少数派を取り込んだHDPに移り、2014年に活動をクルド人の多い地域に特化する民主地域党が設立された。

セスを崩壊させた」と述べている<sup>(12)</sup>。7月11日、PKK側はトルコ軍が軍用道路や駐屯地の建設など「戦争準備」を進めていることを理由に停戦の終了を発表した。

11月に再度行われた総選挙で AKP は317議席の過半数を得て単独政権を維持することになった。AKP の勝利は、PKK の停戦破棄と IS によるトルコ側への攻撃やテロの発生によって、最重要テーマが治安問題になっていたためだ。AKP は和平交渉よりも反クルドのトルコ・ナショナリストの声に耳を傾け始めた。

## 〈トルコとイラク・クルド〉

トルコの国境およそ2,800km の6割以上をイラン、イラク、シリアとの国境が占める。隣接国のクルド情勢が自国内のクルドに与えるインパクトを制御するのは容易ではない。トルコが、イラクのKRGを認知しない頑なな態度を転換したのは2008年だった。いわゆる近隣とのゼロ・プロブレム外交の始まりだ。イラク側にPKKが拠点を持つ状況は続くが、KRGとの密接な関係が双方の経済活動を後押しする効果は大きい。経済的にトルコに依存せざるを得ないKRGへの影響力を強めることにもなった。こうした変化は、PKKとの秘密交渉の時期とも重なる。エルドアン政権が過去のクルド政策から脱して動き出した時期といえるだろう。

KRGは和平交渉でも表裏両面で調停役を担う。トルコのレイラ・ザナ議員ら指導的な活動家が直接、KRGのマスウド・バルザーニ地域大統領と協議する環境も生まれた。和平プロセスに暗雲が立ちこめていた2013年11月には、バルザーニ地域大統領が陸路ディヤルバクルを訪問し、エルドアン首相とともに和平プロセスの継続を呼びかけた。だが、KRGにとってそうした状況は、トルコとPKKの問題にKRGが巻き込まれる度合いを深める。トルコによる越境空爆に強く抗議できないことをみても、KRGの苦しい立場がうかがえる。

## 〈PKK とシリア〉

PKK が長年にわたって拠点を置いていたシリア出身のゲリラは2012年頃に2割といわれた<sup>(13)</sup>。シリアのクルド人の中心的な政治組織PYDは、PKKの元メンバーらが2003年に設立した組織で、サーレハ・ムスリムPYD議長<sup>(14)</sup>は一時期、北イラクのカンディール山のPKKキャンプに逃れていたこともあるといわれる。PYDの軍事部門が、人民防衛隊(YPG)だ。イラクのクルディスタン民主党(KDP)幹部は「実際にPYD・YPGを指揮している

---

(12) Mustafa Akyol ‘Who killed Turkey-PKK peace process?’ Al-Monitor 4 Aug.2015.

(13) ヒュリエト紙 電子版 2012年7月26日

(14) コバネ出身。イスタンブール工科大学で学んだのち、ムスタファ・バルザーニの民族闘争に共鳴してシリアのクルディスタン民主党(KDP-S)に参加したが、その活動に失望してPYDの設立に加わった。

のは PKK 司令官のフェヘマン・フセインだ」と述べている<sup>(15)</sup>。

2014年秋、トルコ国境沿いのシリアのクルド人の町コバネが、IS の猛攻を受けた。トルコ側から戦況が見えるため、世界からメディアが集まった。クルドに女性戦闘員が多いことも驚きをもって伝えられた。コバネの攻防戦をトルコは傍観した。町を救ったのは、続々と集まった志願兵と米軍の空爆、イラクのKRGが派遣したペシュメルガ（クルド兵）だった。これが、クルド人の間に強いエルドアン不信を植え付ける。

### 〈PKK が目指す脱国民国家〉

2000年代中頃から、オジャランPKK党首は「民主的な自治」を提唱するようになった。民主的な自治を行う共同体が集まって「民主的な連邦」を形成するという。オジャラン党首は獄中で、米国のアナキストの理論家でソーシャル・エコロジーを唱えたマレイ・ブクチン氏（1921年1月～2006年7月）に傾倒したといわれる。現在、PKK の実質的なリーダーであるジェミル・バイク KCK 共同代表は、「異質なものを認めない排他的な権力が支配する国民国家の時代は終わる。それに替わるべき形態は多様な価値観がエネルギーとなりうる共同体を基盤とする民主的な連邦だ」と説明する。宗教、民族、文化、性などあらゆるものに対して少数派という概念をもたない。「民主的な連邦においては、既存の国境が存在しても構わないが、重要性はもたない」という<sup>(16)</sup>。

小さな共同体の自発的な行動を連携させる動きもみられる。たとえば、昨年来、東南部の町を封鎖して治安部隊と衝突している PKK シンパの10代を中心とした若者を PKK が組織化しているとの指摘だ<sup>(17)</sup>。また、若者達のこうした行動を昨年末、クルドを中心とした団体が集う民主社会会議の総会が「英雄的」と賛美し、自治区の形成を呼びかけた<sup>(18)</sup>。

### 〈シリアでクルド主導の民主連邦〉

シリアで台頭した PYD を、トルコ政府は PKK と一体とみなし、「テロ組織」と規定するようになった。クルド和平プロセスが続いていた2013年7月には、PYD のムスリム議長がトルコ外務省の招きでイスタンブールを訪れ、ダウトオール外相が「PYDに対するアプローチを見直すのは自然なこと」と述べたこともあるのだが。

2014年の初頭、PYD・YPG がシリア国内で自治を宣言したことが、関係悪化に拍車をかけた。アサド政権打倒に固執するエルドアン政権には、PYD や PKK がアサド政権とつ

---

(15) 筆者インタビュー。2014年3月

(16) 筆者インタビュー。2015年6月

(17) ‘The Human Cost of the PKK Conflict in Turkey: The Case of Sur’, International Crisis Group Europe Briefing No.80. 17 Mar. 2016

(18) ANF 27 Dec.2015 ANF は親 PKK の通信社

ながっているとの認識もある。PYDにとって重要なのはクルドの権利であって、先の見えないアラブ反体制派にくみするよりも、現政権から譲歩を引き出す方が現実的と考えているかもしれない。PYDはアサド軍との大きな衝突もなく、トルコ国境沿いのクルド人が多いエフリン、コバネ、ジャジイーラの3地域で相次いで自治を宣言した。その後、ISとのコバネ攻防戦を契機に、トルコの反対を押し切るかたちで米軍とYPGの連携が始まった。

この頃から、シリアの他の反体制勢力と一線を画していたPYD・YPGが、ISとの戦いで近隣のアラブ武装組織の一部と連携する傾向が出てきた。昨年春、クルドはコバネとジャジイーラを分断していた地域からISを排除して2つの自治区をつなげた。作戦を遂行したのは、米軍による空爆の支援を受けたYPGと複数のアラブ武装組織が連合する「ユーフラテスの火山作戦司令部」だ。10月、米軍は「シリア・アラブ同盟」という名の勢力に支援の武器を投下しているが、この同盟には「ユーフラテスの火山作戦司令部」が入っており、実態はYPGが中核とみられる。当然、トルコは猛反発した。

11月には、アサド政権を支援して9月から空爆を開始していたロシアの戦闘機をトルコが領空侵犯を理由に撃墜し、トルコが支援するトルコマン部隊がパイロットを射殺する事件が発生した。ロシアはその直後から、アレッポ北部からトルコに抜けるアザーズ回廊でトルコが支援する反体制派に空爆を集中させた。回廊の西側はクルドが支配するエフリンだから、ロシアがクルドを支援した格好だ。シリア和平会議でもPYDの参加を巡ってトルコとロシアが反目したが、参加を認められなかったPYDが会議開催にぶつけるタイミングでモスクワに事務所<sup>(9)</sup>を開設している。

ISとの戦いで有志国連合の調整に当たるマクガーク米大統領特使は、今年1月にコバネを訪問した。これもトルコの神経を逆なでした。エルドアン大統領は「あなた方のパートナーは私なのか、コバネのテロリストなのか？」と不満をぶちまけた。「PYD・YPGがISと戦っているからといって、彼らがいいテロリストだという主張は受け入れられない」(エルドアン大統領)というのがトルコの立場だ。大統領はPKKの支持者から市民権を剥奪することにも言及している。

5月にダウトオール首相が辞任を表明したのは大統領との不協和音が原因と指摘されるが、その一つがクルド問題だ。首相がゲリラのトルコ領からの撤退を条件にPKKとの和平交渉再開を示唆したり、市民権剥奪は政府のアジェンダではないと発言するなど、エルドアン大統領との温度差が目につくようになっていた。大統領により従順とみられる次の内閣に、和平交渉を再開する努力を期待するのは難しそうだ。

今年3月、PYDは近隣のアラブやトルコマン、キリスト教徒の地域と「ロジャヴァ（西

---

(9) NGOの看板を掲げた事務所だが、実質的にはPYD事務所として開所式にもPYDとロシア外務省の双方が列席した。

クルディスタン) と北シリアの民主連邦」を宣言した。オジャラン PKK 党首の提唱する「民主的な自治」がシリアに移植されつつあるともいえる。ジャミル・バイク氏は、現状での武装放棄はありえず、「抵抗と解放」の武力闘争が交渉への唯一の道だと述べている<sup>(20)</sup>。その一方で、地域の混乱が PKK・PYD・YPG に「民主的な連邦」というモデルの実験場を提供しているようにも見える。国家の統治システムや権力、国境といった既存の秩序を否定するダイナミズムを警戒するのはトルコだけでなく、イラクの KDP などクルドの保守勢力にとっても同様だろう。

\* 本稿の内容は執筆者の個人的見解であり、中東協力センターとしての見解でないことをお断りします。

---

(20) ANF 2016年4月29日